

ハーモニー

第33号 2003年12月10日発行
日本養護教諭教育学会

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座
後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

目 次

第11回学術集会（徳島）を終えて	2
第11回学術集会参加者の声	3
第11回学術集会アンケート結果	4
ワークショップ 報告	5
第12回総会報告（速報）	
1. 「Yogo teacher」の英語説明文について	6
2. 「日本養護教諭教育学会」の英文名について	6
3. 研究助成金対象研究の選定について	7
4. 2004年度新規事業	
(1) 日本養護教諭教育学会プロジェクトの発足について ..	7
(2) ホームページの開設について	7
日本学校保健学会「学校保健用語集」への 養護教諭の英訳に関する要望について	8
お知らせ、編集後記	8

第11回学術集会(徳島) を終えて

実行委員長 中安紀美子
(徳島大学総合科学部)

第11回学術集会は全国から380名の参加者をお迎えし、全日程を無事終了致しました。関係者・関係団体各位に心からお礼を申し上げます。学会をお引き受けしたときは、徳島という地方で演題や参加者が集まるかとても不安でした。そのため企画と宣伝に全力を注ぎました。

企画は、学術的・理念的な分野として特別講演とシンポジウム、現場的・実践的な分野としてワークショップという2本の柱を考えました。特別講演では、研究者として第一線でご活躍の先生に旬のお話をとを考え、医学部教授としてはお若い中堀豊先生にお願いしました。先生ご自身が養護教諭のために内容構成を考えて準備して下さったということでした。参加者からは「学ぶことが多く、子どもを見る視点が広がった」という好意的な意見が多く寄せられました。シンポジウムは養護教諭の発達支援という、これまで取り上げられてこなかったテーマに挑戦したいという私の希望に、シンポジストの先生には見事にお応えいただきました。現段階で、この企画が参加者の皆さまにどのように受け止められたかはわかりませんが、私としては一粒の種を蒔くことができたのではと考えております。

また、ワークショップは多くの皆さまに話題提供していただき、コーディネーターの先生方のもと、今日的な課題を多面的に深めることができたと思います。

宣伝活動では、学会案内のチラシを養護教諭が参加する会に徹底的に配布しました。県内においても企画や演題が決まるたびに配布しました。実行委員の他に、OGの先生方や養護教諭の先生方が一丸となって支えて下さい

ました。この度の学会開催は本学大学院に養護教諭専修免許状が認定され、院生を初めて迎えた記念すべき年にあたります。多くの皆様のご支援の賜物と心から感謝を申し上げます。

実行委員 竹内理恵
(徳島大学大学院)

学術集会当日は生憎の天候でしたが、全国から多くの会員の皆様にご参加いただき、盛会の内に終えることができ本当に感謝しております。

さて、主に院生二人で事務局を担当し、学術集会開催の準備がこんなに忙しいものかと驚く毎日でした。事前準備がなかなか進まず、当日までばたばたしておりましたので、至らない点が多々あり、皆様方にご迷惑をお掛けしたことをお詫びします。しかし、次のように多くの方のご協力をいただきました。協力委員を引き受け、2日間運営の仕事を黙々とこなし、参加費を払って学術集会には全く参加できなかった徳島県の養護教諭の方々、協力の呼びかけに快くボランティアとして駆けつけてくださった元養護教諭の皆様、準備から後始末まで連日夜遅くまで手伝ってくれた徳島大学の養護教諭課程の学生や卒業生の皆さんです。これらの協力委員が一丸となり、どうにか2日間の集会を終えることができました。この機会に徳島に学会の活動が位置づくよう、これからも頑張りたいと思います。

開催にあたって、知的障害者福祉施設の杉の子作業所と精神障害者福祉施設のあわっこ作業所の活動を多くの方に知っていただき障害者の自立に協力していただけるようにと、救急袋の制作・販売とコーヒーショップのお菓子を注文しました。このような形での社会支援にも取り組みました。

最後に、「徳島に来て本当によかった」と言って帰られた会員の方の言葉に、これまでの苦勞が報われた気がしました。

第11回学術集会参加者の声

養護教諭の職務を見つめ直す機会に

花井典子

(豊橋市立下条小学校)

日々の学校生活の中で、養護教諭の職務についてじっくり見つめ直すことがなかった私。毎日が時間との戦いで、養護教諭であるのに、その本質を考えたりしていませんでした。様々な職種の人たちの学校現場への参入、それにとまなう養護教諭の立場。そういった情勢のことなど、何も考えず過ごしていた毎日。学術集会に参加して、「養護教諭とは」ということを考え直しました。

改めて、養護教諭である自分がプロフェッショナルとして、「健康教育」をコーディネートしていく力を身につける必要があると痛感しました。そして、どんな状況でもコーディネートできるようになりたいと思いました。子どもの保健指導を考えると、新しい発見や納得できる内容を心がけています。このことは、自分の日々の執務にもあてはまると思いました。『日々の執務をただこなすだけではなく、ちょっとしたことにも疑問を持ったり、執務のあり方を振り返ったりしていくことの積み重ねや、研究会に参加して自己研鑽していくことが養護教諭としての自信をつけることになるのでは。』と参加しながら考えていました。

最後に、懇親会のことになりますが、目の前で阿波踊りを見ることができ感動しました。そして、少しの時間ではありましたが、会場のみなさんと一緒に踊ることができ、来年の夏に阿波踊りに参加したいと思うくらい楽しいひとときを過ごさせていただきました。色々な意味で、実り多く視野が広がった2日間でした。

第11回学術集会に参加して

瀬口久美代

(熊本大学教育学部附属小学校)

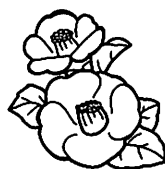
随分前から気になっていました本学会が、来年度は熊本で開催されるらしいと聞き、初めて参加しました。

養護教諭の職務をめぐる課題が社会の変化とともに多くなり、子どもたちの健康課題を解決するために、どのように健康教育や日常の保健室での執務に結びつけていくかを悩んでいるところでしたので、「何かヒントがないか?」と期待してきました。多くの発表を聞くことにより、大変刺激を受けましたし、今後の自分の職務を日々に流されることなく、整理して形作る必要があると考えさせられました。

熊本大学教育学部には、養護教諭養成の課程として、養護教諭養成課程・養護教諭特別科・特別教科(看護)教員養成課程の三つがあります。本校には、そこから実習生が来ますが、実習中の態度・様子・意欲等はバラバラです。「養護教諭の後輩たちを育てる」という楽しみはありますが、これからの養護教諭像を、養成機関とともに現場の養護教諭が本音でディスカッションを行って、一緒に考えていかなければならないのではないかと思います。

来年度、多くの先生方と活火山であります阿蘇山のように、熱い意見交換ができるよう準備してお待ち申し上げます。

火の国熊本に、来てはいよ!



第11回学術集会アンケート結果

実行委員会

第11回学術集会は10月11日(土)～12日(日)「徳島大学共通講義棟」で開催され、380名の参加がありました。参加者の先生方から貴重なご意見をいただきましたのでご報告致します。今年度は第11回という新たな一步の年であり、今後の改善に向けた資料にしていただけだと思っ「学術集会の改善に関するアンケート」としました。日程が詰まっていたこともあり、回答数が少なく41名(学部生除く)でした。以下に報告します。

1. 回答者の特性

(1) 会員・非会員別人数

会員25名(うち第11回からの入会者9名)

非会員16名(入会予定5名、予定なし6名)

*学術集会参加が学会加入の機会である

(2) 平均年齢(会員:42.8歳、非会員:41.5歳)

入会予定者5名の平均年齢(39.6歳)

*若年層の学会参加・加入が検討課題である。

2. 学術集会の情報源

第11回からの入会者(学校保健研究1名、知人・会員4名)

非会員(学校保健研究2名、知人・会員5名、健・健康教室4名、同窓会2名、教育委員会2名)

3. 最も関心の高かったセッション

回答数:会員23名 非会員17名

シンポジウム(会員11名・非会員4名)

ワークショップ(会員3名・非会員10名)

一般演題(会員9名・非会員3名)

*会員はシンポジウム、非会員はワークショップに関心が高かった。

4. ワークショップについて

参加分科会1:15名、2:5名、3:18名

回答数:会員24・非会員16

良かった(会員5・非会員9)

やや良い(会員6・非会員2)

普通(会員7・非会員3)

やや良くない(会員5・非会員2)

良くない(会員1・非会員-)

*会員は全体に分布し、非会員は良いが多い。

5. シンポジウム

回答数:会員24・非会員16

良かった(会員8・非会員6)

やや良い(会員9・非会員3)

普通(会員1・非会員6)

やや良くない(会員4・非会員-)

良くない(会員2・非会員-)

*会員は全体に分布し、評価が分かれた。

6. 会の運営・内容等に関する意見

運営等の意見は全体に肯定的で良好であった。改善点では、「2日目の時間が遅れ気味でゆとりがなく質疑が十分取れなかった」「マイクの調子が悪かった」などの意見が寄せられた。会の内容に関しては、会員は学術的・理論的分野、非会員は現場的・実践的分野の研究を求める傾向がみられた。特別講演の調査項目は設けていなかったが、良かったという意見が多く聞かれ、シンポジウムについても良かったという意見が多かった。今後の課題として、ポスターセッションの導入、プロジェクターの使用、学会参加がし易いように開催地を偏らせないこと、特に実践報告については学術集会にふさわしい内容かを検討すべきなどの意見が寄せられた。最後に、学会らしい学識ある会であった、学術的な学会であった、充実していたという意見を少なからずいただいた。また、温かい対応ときめ細かい配慮で、気持ちよく参加できたという意見も多くいただいた。

現地でご協力いただきました多くの皆さまの一方ならぬご支援に感謝申し上げます。

●●●●● ワークショップ報告 ●●●●●

養護教諭をとりまく現状と課題

—さまざまな職種の導入をめぐって—

●●●●●

<第1分科会>

健康管理における養護教諭と看護師の連携

郷木義子（順正短期大学）

医療技術の発達やノーマライゼーション等の気運の高まりから、医療的ケアは養護学校のみならず、一般学校にも関わる問題であり、特に看護師との連携は養護教諭にとって避けられない問題となってきた。しかし、現実にはまだまだ多くの課題を抱えており、その対応に関しては未だ結論は得られていない。

このように、さまざまな職種が学校へ導入されることが予想される中で、やはり養護教諭の仕事は何かをいつも再確認していく必要があると考えている。

当分科会では、2人の養護教諭の先生に話題提供していただいた。県立岡山盲学校の三輪先生からは、看護師との直接の連携ではないが、多くの他の関連職種と係わり合いながら、子どもたち一人一人と丁寧に向かい合うことで、子どもの健康状態をどう引き上げていくことが養護教諭の仕事なのかを話していただいた。

—また、岡山県で初めて緊急時医療対応として看護師が2人配置された岡山東養護学校の山崎先生からは、その経緯や看護師との連携のあり方を報告してもらい、養護教諭が健康に関するコーディネーターの役割を果たすことの重要性を報告していただいた。

フロアからは話題提供者に対する若干の質問と運営に関するご指摘をいただいた。

コーディネーターの時間配分のまずさ等から、本題である「健康管理における看護師と養護教諭」に迫りきれなかったことをお詫びいたします。

<第2分科会>

健康教育における養護教諭と

学校栄養職員の連携

松下美智子（徳島県勝浦町勝浦中学校）

食教育において、いかに養護教諭の独自性を発揮し、学校栄養職員と連携をしながら棲み分けを図っていくかについて討論した。その結果、次のようなことが共有できたと思われる。

養護教諭は、子どもの実態や学校の状況をもとにどのような食教育が必要で、また実践できるかを学校栄養職員や学級担任等の関係する職員と協議し、企画の中心となって進めていく必要がある。

実際の食教育の運営面では、どの分野を担当するかは、それぞれの専門性が発揮できるような計画の段階から話し合いながら進めていく必要がある。運営に当たっては、担当者の意欲や連携の難しさはあるが、それを越えた食教育の必要性に関する深い理解を学校の教職員や保護者、また子ども一人ひとりから得られるような働きかけができるところに、専門性があり、問われていると考えられる。

その方法論としては、各校の実態によって、養護教諭の独自の方法で取り組んでいく必要がある。

瀬川政子先生の実践例は、養護教諭の企画・運営により、それぞれの専門性を有効に発揮した取り組みであり、大変参考になる事例である。

養護教諭の兼職発令を受けている者に比べ、学校栄養職員が特別非常勤講師の任命を受けている者が増加している傾向にあることについて、今後考えていかなければならない課題となった。

<第3分科会>

健康相談活動における養護教諭と

スクールカウンセラーとの連携

徳山美智子（愛知女子短期大学）

当分科会の話題提供者は、安川裕美氏（西宮市立甲武中学校）と平松和枝氏（大阪府立柴島高等学校）であった。安川氏は、「養護教諭と関わりの深い多様な職種が配置されている中で、体の問題は看護師に、心の問題はスクールカウンセラーへと振り分けられたとき、養護教諭の役割と立場はどうあればよいか不安に陥ることも多い。しかし、生徒を心と体の両面から総合的に捉え、常勤であることが彼等にとって安心材料になっていることに着目し、今後も専門的な知識を生かして、名実ともにコーディネーターとして活動する力量を持ちたい。」と述べた。また平松氏は、「スクールカウンセラーと対等な関係を維持し、養護教諭が専門性・独自性を発揮していくためには力量を高めるしかない。自己を客観的に評価する視点も欠かせない。養成機関では、基礎基本を重視し、現場の実践研究を基盤にして、他職種には代えられない資質を備えた養護教諭の養成を期待する。」と述べた。

参加者から、養護教諭は教育職員であり、スクールカウンセラーは連携の一対象であるから、対等という位置づけではないことや、健康相談活動の用語の解釈の明確化、現職教育の重要性等が出された。さらに、「養護教諭は児童生徒の問題行動ではなく問題症状に対応すべきである。」との意見に対して、「科学的知識・実践の積み重ねを駆使して、常時、児童生徒を総合的に捉えている。また、その必要性がある。」との意見もあった。

予想を上回る数の参加者があり、健康相談活動への関心と意欲の高まりを実感した。

第12回総会報告（速報）

1. 「Yogo teacher」の 英語説明文について

第11回学術集会において、理事会より「Yogo teacher」の英語説明文の原案とその作成経過が報告されました（詳細については、第11回学術集会抄録集（p.36-37）に掲載してあります）。若干の質疑応答を経て、翌日の第12回総会において原案どおりに以下の説明文が承認されました。

「Yogo teacher」英語説明文

A “Yogo teacher” is a special licensed educator who supports children’s growth and development through health education and health services on the basis of principles of health promotion in all areas of educational activities in school.

2. 「日本養護教諭教育学会」の 英文名について

第11回学術集会において、理事会より「日本養護教諭教育学会」英文名の原案が報告されました。そして、翌日の第12回総会において原案どおりに承認されました。なお、略称は「ジェイトゥ」と読むことができます。

「日本養護教諭教育学会」 英文名
Japanese Association of
Yogo Teacher Education
(JAYTE)

3. 研究助成金対象研究の

選定について

2004年度研究助成金対象研究として次の研究が第12回総会において承認され、2004年度助成金として5万円が交付されることになりました。

- ◇ 研究テーマ：養護診断開発のための基礎的・実践的研究－四肢の痛みの訴えを例に－
- ◇ 研究者：○岡田加奈子（千葉大学）、葛西敦子（弘前大学）、三村由香里（岡山大学）、徳山美智子（愛知女子短期大学）、中山志保子（千葉市立朝日ヶ丘小学校）、酒井都仁子（千葉県長南町立西小学校）、山本雅（千葉大学大学院）、高田しずか（千葉大学大学院）
- ◇ 研究目的：学校でよく生じる四肢の痛みに対する養護診断にテーマを絞り、養護教諭の行う診断名（たとえば「痛み」）、その定義、診断指標、関連要因、発達上の問題点、教育・養護支援等を明確にする。



4. 2004 年度新規事業

(1) 日本養護教諭教育学会

プロジェクトの発足について

養護教諭の専門性が論議されるなか、専門領域で多用される用語（専門用語・学術用語）の研究は進んでいません。本学会は2年前に養護教諭をYogo teacherと表記することを決議しましたが、この一語に限らず、英訳名を検討しなければならない語句は少なくありません。そこで、本学会の果たすべき社会的な責任と学術的な学会誌発行の立場から、養護教諭の専門領域に関わる用語を整理し、その定義づけ（用語解説）と英訳化について検討するプロジェクトを立ち上げることにしました。研究員は研究目的に鑑みて、編集委員長及び研究担当理事を中心として、学会員10名程度（養成機関、現職養護教諭、行政関係）によって構成します。本研究は、養護教諭関連の書籍や報告書などで多用されている用語の拾い上げ、それらの意味や用例の整理、養護教諭に関連する専門用語として位置づけられる語句の抽出、さらに、拾い出した語句の英訳化の検討へと進めていく予定です。2004年4月から研究プロジェクトを立ち上げ、会員皆様のご意見を受けながら、2005年の第13回学術集会で成果を発表いたします。

(2) ホームページの開設について

現在は、下村前理事により試行的にホームページが開設されています。予算計上の承認に伴い、2004年4月より、日本養護教諭教育学会のホームページを正式に立ち上げる予定です。

日本学校保健学会「学校保健用語集」への

養護教諭の英訳に関する要望について

理事長 天野敦子

日本学校保健学会では、学校保健用語の英訳を進めています。この度、第50回日本学校保健学会における特別報告にあたり、報告者のお一人である女子栄養大学の鎌田尚子先生から、8月中に学校保健用語の英訳が決まるということなので日本養護教諭教育学会としても養護教諭の英訳名について要望する必要があるのではないかと助言を受けました。そこで理事会に諮り、2003年8月20日付けで日本学校保健学会「学校保健用語集刊行委員会」委員長松本健治様宛に養護教諭の英訳に関する要望書を理事長名で送付しました。

内容は、2001年度から発足させた英訳ワーキンググループの提案を受けて、本学会が「養護教諭は『Yogo teacher』と表記することが妥当であると決議した検討の経緯を述べ、養護教諭の英訳を「Yogo teacher」と表記していただくようお願いする文面としました。その後、日本学校保健学会のホームページ上に学校保健用語集に掲載予定の学校保健関連用語とその英訳が提示され、11月2日の第50回日本学校保健学会において「学校保健の用語をめぐって」の特別報告会がもたれました。その際、鎌田先生から日本養護教諭教育学会第12回総会の承認事項を載せた配付資料をもとに、養護教諭を「Yogo teacher」という提案がなされました。この報告会に先立ち、前日の日本学校保健学会の評議委員会において鎌田先生に次いで天野も発言し、12月まで再検討の期間が延長されました。

会員の皆様で、日本学校保健学会会員の皆様におかれましては上記のような要望を「学校保健用語集刊行委員会」宛てにお送りいただければと思います。理事会では、養護教諭に関する用語（例えば養護教諭養成）についても適切な表記を要望する予定です。

お知らせ

次期学術集会について

第12回学術集会の開催地は熊本市で、実行委員長は松本敬子先生（九州看護福祉大学）です。多数の発表と参加を期待しています。

「日本養護教諭教育学会誌」の英語表記について

本学会の英文名が決定したことにより、学会誌の英語表記を次のようにしたいと思います。事務局までご意見をお寄せ下さい。

「Journal of Japanese Association of Yogo Teacher Education」

事務局より

- ☆所属先の変更・連絡先の変更がありましたら、至急、事務局までお知らせください（会員番号を記入して郵送またはFAX）。
- ☆学会誌のバックナンバーは、第1巻と第3巻の残部がなくなりました。第2巻と第4巻の残部もわずかです。
- ☆第11回学術集会で、神奈川県での10月のTV報道について調査をして欲しいという要望が出されました。詳細を調査中ですが、ズームインSUPERのVTRをお持ちの方はお知らせください。

編集後記

徳島の学術集会での熱気あふれる議論と、楽しい阿波踊りでもてなして下さった実行委員会のあたたかさを感じ取っていただけましたでしょうか。今年も残りあとわずか。よいお年をお迎えください。（鈴木）

カゼやインフルエンザの発生しやすい季節を迎えました。重症急性呼吸器症候群（SARS）の再流行も心配されています。国際的な健康課題にも注目しながら、改めて疾病予防について気を引き締めていきましょう。（山崎）